

○保育士確保対策について

1. 堺市保育士等就職支援コーディネート事業（無料職業紹介事業）について

<事業開始の経緯>

全国的な保育士不足を受け、国において平成24年度補正予算で、保育士人材確保等事業として、保育士の処遇改善や潜在保育士の再就職支援など、自治体による保育士確保施策への助成が打ち出されたことを契機に、平成25年10月1日より本事業を開始した。

堺市では、直営で本事業を実施し、市立こども園の元園長（再任用職員）を就職支援相談員（コーディネーター）として配置することで、勤務経験を活かし、市内民間保育施設へのスムーズな就職を支援している。

<事業の内容>

○令和2年9月、求職登録者数の増加を図り、就職斡旋をより活性化させるため、人材バンク機能を有する「さかい保育人材情報ポータルサイト」を開設。潜在保育士や保育現場で働くことに興味のある方などが、パソコンやスマートフォンでいつでも市内教育・保育施設の求人情報や施設情報を検索・閲覧することができる。

- ・さかい保育人材情報ポータルサイトへの流入促進を図るため、潜在保育士や保育士をめざす学生に向けWEB広告やSNS広告を発信している。
- ・ポータルサイト上に、就職までのプロセスや就職後の姿をイメージしていただけるよう、保育士等就職支援コーディネート事業等を利用して就職された方の体験動画等を掲載

○令和3年8月「さかい保育士・保育所支援センター」のLINE公式アカウントを開設。求職者の方たちに友達登録していただくことで、随時、新着求人情報やイベント情報を周知。

○さかいJOBステーション（働く人・働きたい人のためのワンストップサービスセンター）において月1回の相談日を設けるほか、ショッピングモールで毎月出張相談会を実施。

○上記就職支援コーディネート事業においては、市立こども園の元園長を再任用職員として直接雇用し、就職希望者からの相談に対応。

<事業を開始してからの求職者数、求人者数、採用件数の推移>

平成25年度			平成26年度			平成27年度			平成28年度		
求職者数	求人者数	採用件数	求職者数	求人者数	採用件数	求職者数	求人者数	採用件数	求職者数	求人者数	採用件数
69	124	19	67	141	17	95	113	7	58	85	12
平成29年度			平成30年度			平成31年度			令和2年度		
求職者数	求人者数	採用件数	求職者数	求人者数	採用件数	求職者数	求人者数	採用件数	求職者数	求人者数	採用件数
44	110	11	86	177	42	86	207	61	92	299	44
令和3年度			令和4年度			令和5年度(4月～9月)					
求職者数	求人者数	採用件数	求職者数	求人者数	採用件数	求職者数	求人者数	採用件数			
71	241	47	68	244	39	24	153	6			

- 「求人」の申込は、上半期は非正規、下半期は次年度の採用を見越した正規の申込が多い。「求職」の申込は、子育て中の潜在保育士の方や、転職希望者が多い。また、認定こども園や保育所の入園申込開始前後に、問合せや申込が増加する傾向がある。

2. さかいプレ保育士事業について

<事業開始の経緯>

当初、本事業は対象者を有資格者、受入先を公立こども園に限定していたが、市内民間保育施設等において、保育士の負担軽減のため無資格者（保育補助者）の活用が拡大されていたこと、また、指定保育士養成施設の学生に保育の仕事の魅力や楽しさを伝える機会を提供するため、平成31年度より対象者を無資格者に拡大した。意向調査を実施の上、受入先を市内民間保育施設にも拡大し、新たに保育資格の有無を問わない「体験コース」を設置した。

<事業の内容>

- 受講者の属性は、他の業種等で勤務中であって、子どもが好きで保育現場を体験してみたいという方が多い。
- 受入施設において、ボランティアとして教育・保育を体験・実践（1回半日程度・1～2回程度実施）
- 終了後、施設から参加者に対し就職に向けたアドバイス等を行い、市から参加者に対して体験・実践に対する謝礼として1回あたり1,000円を支給する。

<事業の意義、効果>

- 一般の方の参加は「保育士等就職支援コーディネート事業」における求職者として登録することを参加条件としているため、参加者がそのまま受入施設に就職する可能性がある。また、指定保育士養成施設の学生を対象とすることで、現場体験の場が提供でき、施設のPRにもつながることから、多くの施設が参加。
- 令和元年度は参加者13名のうち、4名の方が就職につながった。
- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、一時事業を中止していたが、令和5年10月より再開した（令和5年度は公立こども園のみで再開）。

3. SNS や AI を活用したシングルマザー等就業支援事業

<事業開始の経緯>

- 子どもの貧困対策・貧困の連鎖の解消に向けては、現在の暮らしを支える生活基盤の確保、将来を見据えた自立支援、子どもの教育面での支援など、多岐にわたる取組が求められる。
- 従来、これら取組を各事業所管局によって実施していたが、連携を強化し、より効率的な取組を推進するため、令和3年4月、組織横断的な子どもの未来応援チームを設置。

<担当部局構成>

- 子育て支援面：子ども青少年局 子ども家庭課（子どもの未来応援担当）
→子どもの貧困対策特命、今と将来を見据えて
- 福祉面：健康福祉局 地域共生推進課

- 雇用面：産業振興局 雇用推進課
- 教育面：教育委員会事務局 教育政策課
- それぞれの課長に兼務がつき、担当としての役割がある

<事業の内容>

- 子育て家庭の中でも困窮状態であることが多いひとり親家庭への支援を重点化し、特に経済的に自立に繋がる支援の強化に向けて、検討・実施する。
- 併せて、貧困の連鎖を断ち切るため、子どもや若者への支援を検討・実施する。
- ひとり親家庭自立支援に関して様々な取組を行っているが、特に自立に向けた「意欲喚起」の事業を強化。令和4年10月、仕事・育児・家事に多忙なひとり親がスキマ時間でも利用しやすいLINEを活用した就業支援をスタートした。

<「ひとり親×仕事」サポート LINE について>

- 多忙なひとり親が利用しやすいよう、SNSを活用した就職・定着までの一貫支援
就業相談、毎日早朝6時～深夜1時（チャット、通話、ビデオ通話から選択）
- 就業中のシングルマザーがスキマ時間を活用し、スマートフォンで気軽に求職活動ができるよう、SNSとAIを活用した就業支援を実施。相談から就職・定着までを一貫して支援。
- 従来の窓口相談とLINE相談を組み合わせることで、個々の状況に応じた利用しやすい相談支援体制を構築し、就業支援へのアクセス向上を図る。
- 機能
 - ①適職診断・心理チェック
 - ・LINEに表示されるメニューから「ストレスチェック」、「仕事の価値チェック」、「パーソナリティ診断」を利用可能。
 - ・簡単に自己分析ができるため、履歴書を書く時や、就職・転職の面接時などに役立つ。
 - ②就職・転職相談
 - ・仕事の悩みや不安、これからの働き方など。
 - ◆ 朝6時～深夜1時までの1時間、土日祝も相談可能（予約制）。
 - ◆ 相談方法はチャット、電話、ビデオ通話から選択。
 - ・国家資格を持つキャリアカウンセラーが相談対応。